

## 2. 高校2年

# 国際理解・平和・人権 — 「沖縄の心から平和を学ぶ」ディベートの計画と指導 —

仲田 恵子

### はじめに

ディベートとは、ある問題について、一定のルールに従って、相反する二つの立場に分かれて行う議論のことで、ディベートを行う目的とは、真実に近づくことであり、また相反するもののどちらでもない第三の価値を発見することであり、何よりも問題の本質を理解することがあげられる。

本校のディベートによる沖縄学習は3年目を迎え、高校2年生の沖縄研究旅行を軸とした沖縄学習の一貫として重要な役割を果たしている。1学期のプレ研究、学部先生の特別講義、2学期のディベート、研究旅行、3学期のフィールドワーク報告会、研究集録作成という流れの中で例年ディベートが実施されている。

平成9年度は研究旅行の後で3クラス合同のディベート最終戦を公開授業で実施したので、従来の事前学習としてのディベートとは異なり、最終戦出場予定者は沖縄旅行中もディベートのための聞き取り調査や資料収集に余念がなかった。

沖縄に行く前と行った後で、またディベートを体験する前と体験した後で、「米軍基地」に対する考え方が変化したという生徒が多く見られた。これは、「真の平和とは何か」、「米軍基地は必要なのか否か」、「沖縄の抱える問題」、「日本の抱える問題」について生徒たちが調査研究し、その問題の本質に迫るディベートをした結果、理解が一層深まり、新しい価値を発見したといえる。

以下にディベートの指導計画、実施、アンケート調査の結果の報告を行う。

### 1. 平成9年度ディベート学習の日程

7月

ディベート・オリエンテーション1  
研究旅行の班で役割分担  
ディベート委員の選出

9月3日

旅行委員会ディベート委員会発足

ディベート委員会で論題を決定

9月6日

ディベート・オリエンテーション2  
練習試合1（2試合）  
肯定側／否定側の両方を体験

9月中旬

ビデオによるディベート学習

10月4日

ディベートの準備

11月1日

練習試合2 指導教官別にグループ内で3試合  
行い、肯定側／否定側／議長団の3つの役割を  
体験  
ディベート最終戦の役割希望調査

11月上旬

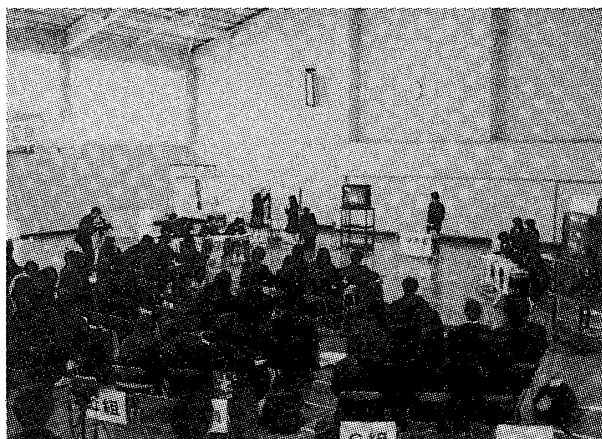
ディベート委員会で最終戦出場者選出

11月21日

3クラス合同ディベート最終戦

12月～2月

アンケート調査のまとめ



11月21日ディベート最終戦立論

### 2. ディベート委員会

研究旅行の班は1クラス40名が6班に分かれて、3クラスで合計18の班でフィールドワークを行うため、

## 2. 高校2年 ディベートの計画と指導

班ごとに班長、副班長、事前学習、ディベート、しおり、編集などの役割を分担する。ディベート委員会は、各班より1名、3クラスで合計18名のディベート係と、旅行委員のディベート担当者2名で構成され、合計20名の委員会であった。

各班のディベート係は旅行委員のディベート担当者とともに委員会を結成しディベートの準備、指導、実施に当たった。実際には、論題の選定、各クラスでの練習試合の指導と実施、最終戦出場者の選出、公開授業での最終戦の準備、最終戦の議長、ディベート後の交流会の司会などを行った。さらにディベート後のアンケートの集計を責任を持って担当した。

### 3. 論題について

平成10年度の論題は「沖縄の米軍基地は撤廃すべきである」であった。これは、9月3日の旅行委員会ディベート係のミーティングで決定された。賛成反対の両方の立場から議論する価値のあるテーマであり、また、テーマが広すぎないので、資料収集や議論の計画がし易いということで決定された。

ディベートを行うことにより、参加者の一人一人が、賛成と反対の両面から米軍基地と平和の問題を考えることができる。沖縄の県民の立場、国際社会における日本の立場など様々な角度から、米軍基地の問題を見ていくこととなった。

### 4. 第1回練習試合

9月6日にディベートの説明と練習試合が行われた。3限の全体での説明の後、4限はクラスごとに教室で、班でチームを組んで、第1回目の練習試合が実施された。以下に練習試合のフォーマットを紹介する。各班は1試合20分で2試合行い、行程側と否定側の両方を体験した。教室内で3箇所に分かれ、3試合が同時進行で行われた。

9月6日

ディベートフォーマット1

ディベート 練習試合の時間配分

合計約20分

- 2分 肯定側 立論
- 2分 否定側 立論
- 1分 作戦タイム
- 4分 否定側 反対尋問
- 1分 作戦タイム
- 4分 肯定側 反対尋問
- 1分 作戦タイム
- 2分 否定側 最終弁論

2分 肯定側 最終弁論

合計 19分

チームの組み合わせ

11:45~12:05

肯定側1班 対 否定側2班

肯定側3班 対 否定側4班

肯定側5班 対 否定側6班

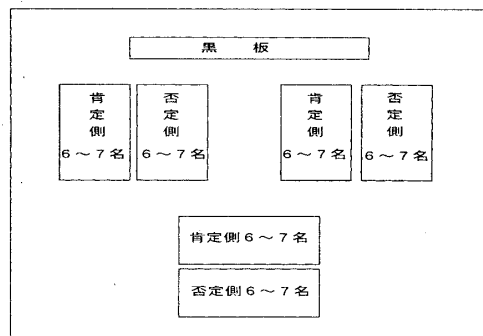
12:10~12:30

肯定側2班 対 否定側3班

肯定側4班 対 否定側5班

肯定側6班 対 否定側1班

会場づくりー机の配置 (第1回練習試合)



肯定側と否定側は互いに向かい合い、1教室で3試合が同時におこなわれた。

### 5. ビデオでのディベート学習

9月中旬にクラスごとにビデオで過去のディベートの試合の様子を見て、立論の話し方、質疑応答の方法、最終弁論の話し方などを観察した。平成7年度の高校2年生が同じ論題でディベートをしたときのビデオを利用した。

### 6. 肯定側、否定側の論旨

以下のものは、例として示された論旨である。第1回の練習試合では各チームで他にも考えられる論点を出して討論が行われた。

#### 肯定側の論旨の例

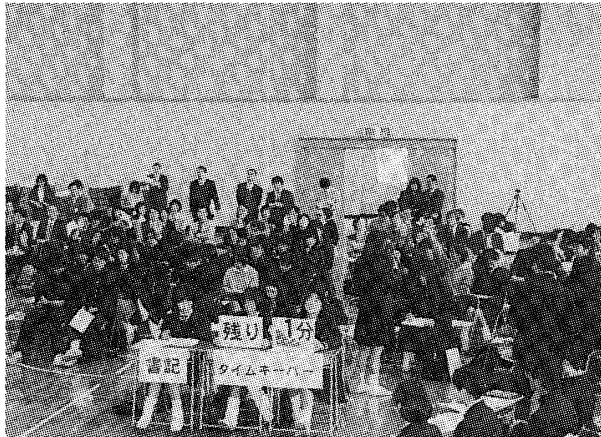
「米軍基地は撤廃すべきである」

- ◆米軍基地の軍事力は世界の平和を脅かす
- ◆沖縄県民の平和と安全を脅かす(米兵の犯罪、事故、基地の騒音)
- ◆基地の土地強制使用は、基本的人権の侵害である

**否定側の論旨の例**

「米軍基地は撤廃すべきではない」

- ◆米軍基地はアジアの平和を守るために必要である
- ◆基地産業が沖縄経済に大きく貢献している（基地を撤廃すると失業者が増える、地主は土地借用料が頼り）
- ◆自衛隊の軍事力抑制に役立っている



最終戦でタイムキーパーが残り時間を示しているところ。生徒判定員の後ろは一般参加者の判定員

**7. 第2回練習試合**

指導教官6名がそれぞれ3つの班を指導する体制が生まれ、指導教官ごとに別々の教室でグループ別指導が行われた。10月4日からはこのグループ内で3つの班がそれぞれ平等に肯定側、否定側、議長団の役割を練習する準備を始めた。

まず、生徒たちはディベートには2種類あること、高2では総合人間科でアカデミックディベートを学び、高3では、国語表現でパラメンタリーディベートを学ぶことについて説明を受けた。

次に、グループ内の練習試合の対戦相手と、班内での役割分担を決めた。それから、肯定側、否定側、議長団の役割と練習試合の時間配分をプリントを見ながら確認した。練習試合の試合時間は30分弱で、11月1日に実施することになった。

次に、肯定側、否定側でどのような議論を出すことができるか、全員でブレインストーミング（アイデアを出しあう）活動をした。前回提示された論題も含めて検討した。

最後に、リサーチはどのように進めるか、どんな本が必要か、その他の資料はどうするかなど、班で話し合いをして、班の役割分担表、ディベート準備計画を提出した。

資料：第2回練習試合 対戦相手、役割分担表 プ

リントより

- (1) 肯定側・否定側・議長団 各1班ずつローテーションで決めましょう。

**第1回**

肯定側	組	班
否定側	組	班
議長団	組	班

**第2回**

肯定側	組	班
否定側	組	班
議長団	組	班

**第3回**

肯定側	組	班
否定側	組	班
議長団	組	班

6人の指導教官のもとに6会場で同時に練習試合を行います。グループ内での練習試合の後、希望調査をして、最終戦の出場者が選出されます。

- (2) 各班で役割分担を決めましょう。

肯定側の時：

- 立論 ( )
- 最終弁論 ( )
- 資料提示 ( )

否定側の時：

- 立論 ( )
- 最終弁論 ( )
- 資料提示 ( )

質疑応答の時：全員参加

議長団の時：

- 議長 ( )
- 書記 ( )
- タイムキーパー ( )
- アドバイザー ( ) ( )
- ( ) ( )

- (3) 議長団の役割分担、役割の内容と留意点

- 議長 1名
- ディベートの開始から終了までの司会進行、発言者を指名する。
- 書記 1名

## 2. 高校2年 ディベートの計画と指導

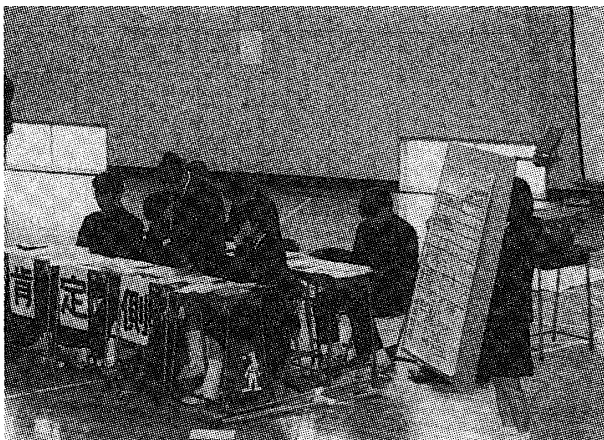
前もって肯定側と否定側がB紙に書いておいた論旨、その他の提示物の確認をして各班に掲示させる。ディベートの議論をディベート・ノートに書き指導教官に提出する。

タイムキーパー 1名

ストップウォッチで計時、残り時間を発言者に知らせる。残り時間を示すパネルを作る。時間が切れたら、「時間です」と警告する。

アドバイザー 3名～4名

各自で議論をノートを取りながら聴き、肯定側、否定側の討論活動がどのように行われたか、主な項目についてどちらの議論が優勢であったかを批評する。



米軍基地の土地強制使用について説明する肯定側

### (4) ディベートフォーマット2

第2回ディベート練習試合の時間配分

合計約30分

1分 議長の司会開始

立論（演台に立つ）

3分 肯定側 立論

3分 否定側 立論

2分 作戦タイム

質疑応答・自由討論（座席で立つ）

3分 否定側 反対尋問

否定側は全員で質問する

肯定側は全員で応答

3分 肯定側 反対尋問

肯定側は全員で質問する

否定側は全員で応答

2分 作戦タイム

最終弁論（演台に立つ）

2分 否定側 最終弁論

2分 肯定側 最終弁論

批評

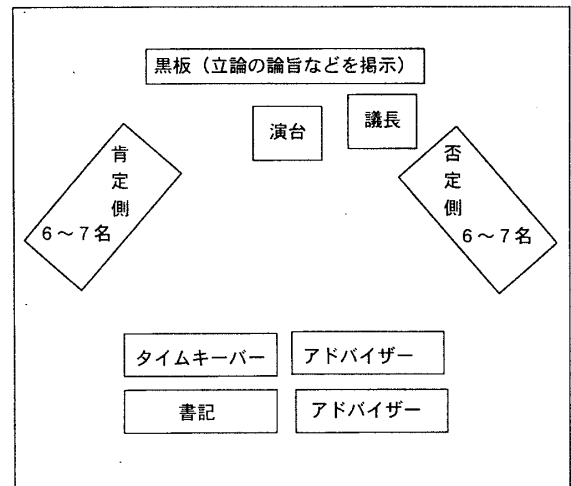
2分 アドバイザーの  
打ち合わせタイム

2分 アドバイザー  
討論についての批評を発表  
(座席で立って批評)

2分 指導教官の講評

合計 27分

### (5) 会場づくり一機の配置



## 8. ディベート委員の活動

20名のディベート委員は、ディベート委員会を開いて、希望調査と推薦に基づいて11月21日に行われる3クラス合同の最終戦出場者と、準備や企画・進行の担当者を選出した。その後、当日の準備に向けて、委員会を数回開いた。

### (1) ディベート委員

A組： 村瀬・二村・高田・佐橋  
今尾・魏・宇佐美

B組： 嘉成・小梁川・山田・仮谷  
井上・近藤洋

C組： 白木・桃井・酒向・飯沼  
籾具・長屋・田良島

### (2) ディベート最終戦 出場者

肯定側ディベーター：

石川毅・杉江・大塚・荒川な  
木村・三好・島崎・八木ゆ

否定側ディベーター：

八木・土方・廣田・橋本  
荻谷・南埜・家田・木綿

議長：  
 深見・林  
 アドバイザー：  
 伴・寺本・各務・恩田・加藤・斎藤  
 タイムキーパー：  
 水谷・今井田・中嶋  
 書記：  
 横井・古田・尾崎  
 サポーター：  
 今尾・魏・宇佐美・村瀬・近藤洋  
 井上・小梁川・藤具・長屋・田良島  
 判定員：  
 全員

否定側最終弁論 2分  
 肯定側最終弁論 2分

アドバイザーの打ち合わせタイム 2分

アドバイザーの批評 3分

交流会 30分

(3) デイバート後の交流会の司会  
 村瀬・桃井

(4) デイバート後のアンケート集計  
 井上・早野

(5) デイバートフォーマット3  
 論題「沖縄の米軍基地は撤廃するべきである」

デイバート最終戦の時間配分  
 デイバート約40分/交流会30分

討論の流れ  
 議長の開会宣言 1分

立論スピーチ  
 肯定側立論1 3分  
 否定側立論1 3分  
 肯定側立論2 3分  
 否定側立論2 3分

作戦タイム 2分

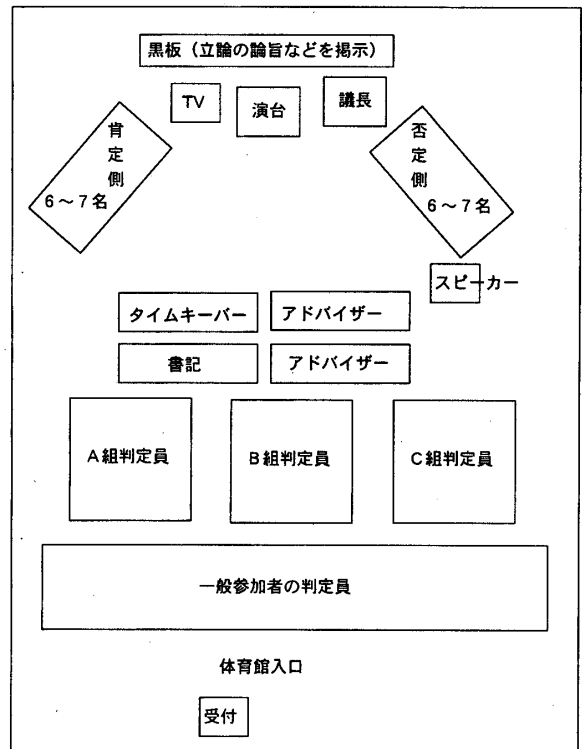
反対尋問  
 否定側から肯定側へ 3分  
 肯定側から否定側へ 3分  
 聴衆から肯定側・否定側へ 2分

作戦タイム 2分

反駁のスピーチ  
 否定側の反駁 2分  
 肯定側の反駁 2分

最終弁論

(6) 会場づくり—机の配置



9. 高2 総合人間科 デイバート関連のアンケート集計結果

(1) デイバート最終戦と交流会についての感想、意見、改善点

<デイバート最終戦について>

◆感想、意見

- ・今までのデイバートの中で一番よかった。ためになった。
- ・みんな本当にかっこよかった。
- ・レベルの高いデイバートであった。
- ・対戦相手には分かったが、見ていた人にはあまり分からなかったと思います。
- ・時間で区切らないほうがよいと思います。

◆改善点

## 2. 高校2年 デイバートの計画と指導

- ・デイバーター達がもう少し高い位置でやってもよかったですと思う。

### ◆デイバーターの感想、意見

- ・みんなで精一杯できたと思う。とても楽しかった。
- ・発表者選びの際に性格を考慮すべきだ。
- ・人前に立ったら頭の中が真っ白になった。
- ・時間が短かったと思う。親にはデイバートをしている人が全然見えず、資料も見えず、声も聞こえにくかったという点を考慮したほうがよいと言われた。
- ・デイバーターがかわいそうだ。
- ・あまりに緊張してうまく話せなかったのが残念です。



最終戦後の交流会での意見交換

### <交流会について>

#### ◆感想、意見

- ・デイバートをやっていない人たちの意見を聞いて良かったと思う。
- ・木村さんの意見がカッコよかった。
- ・ランダムに当てた方がよかった。プリントを見ながら感想を言うのはちょっと。
- ・いきなりあてられるのはつらい。
- ・急に指名された人がきちんと自分の意見を持っていてとても感心した。
- ・もっとたくさんの意見が出るのだと思っていたら、全然だったのでさみしいと思った。
- ・色々な人の考えを聞いて良かったけど親とか来てくださっている人の話をもう少し聞けると良かった。
- ・一人一人が発表していくという形で、良かったと思うが、一人の意見に対してみんなで意見を出しあうという「交流会」にはならなかったのが残念だ。

(2) 最終戦を終えた今、米軍基地についてあなた

自身はどちらの意見ですか。

#### ◆《なくしたほうがいい》

- ・沖縄に行ってきて、自分の家の近くであんなにうるさい音<戦闘機>がしたら睡眠妨害になるから。
- ・確かに経済上の利点が無くなるという問題点があるけれどどこかで行動を起こさないと二度と戻らない。
- ・今すぐにはできないにしても、必ずなくさなければいけないけど、でもなくすと困るけど、やっぱり真の平和というのはそういう基地とか、兵器とかが無くなって、平和だからなくした方がいい。
- ・基地に頼ることは、メリットがあるものの何かに頼る形をとってはいは進歩がないから。
- ・今すぐなくすのは難しいけれど、なくす方向にいけばいいと思う。それは、やっぱり被害を受ける人がいたら、平和とはいえないと思うから。

#### ◆《あったほうがいい》

- ・デイバートの中で言ったので言いません。長くなるから。
- ・今すぐは難しいから今はあった方がいい。でもこれからなくしていく方向に行くといい。
- ・今はなくすと大変になる問題がたくさんある。もちろんいつか必ずなくすべきだと思うが、今この問題を解決できてないままなくしてしまうと、失業者や土地の問題が起こってくるので。

#### ◆《どちらともいえない》

- ・賛成、反対の両方の立場の人に会ったから。
- ・なくしてもなくさなくても状況が変わるだけで、特に改善されるわけでもない。
- ・私は絶対なくすべきだと思っていたけれど、実際沖縄の人にとって基地は当たり前のようになっていたり、結構なくなるとは困るという人がいて、どちらとも言えない。
- ・個人的には絶対ない方がいいと思うのだけど、それは私の生活が直接関係していないから安易に考えられることだから。生活がかかっている人は基地がないと次の日から暮らしていけないので、どんなに基地の弊害をわかっているともないと生きていけないから。
- ・戦争、人を殺すための基地はあってはならないものだけど、今の日本、今の沖縄、今の世界では(沖縄の基地経済について特に)問題がありすぎて、撤廃は難しいものだと思うので。

(3) デイバートを体験して、考えが変わりました

か。また、新しいことが分かりましたか。

◆感想

- ・沖縄の米軍基地のことはもちろん世界のたくさんの事件に対して、前ほど無関心ではなくなった。
- ・今まで無知すぎたので、ディベートが楽しくなってきた。沖縄から帰って来てからのほうがやりがいがあると思う。
- ・いろいろ新しい情報が手に入り、考え方も「なくした方がいい」から「どちらとも言えない」に変わった。
- ・絶滅に瀕した鳥なんか基地に関係しているなんて知らなかった。
- ・ディベートをするために沢山のプリントや本を読んでいろんなことを知った。基地の被害がどんなものかわかり、また反対に基地に依存している人がどれだけいるかも分かった。でも、ディベート中は自分が話をするのに緊張して、相手の話をあまり聞けなかった。
- ・変わっていない。
- ・基本的に変わってないけど、沖縄の人全員が撤退すべきだと言っていないと言う事実を改めて知り、さらに考えが複雑になった。
- ・ディベートは予定外のことがあまりなくて、つまらない。もう少しあれの方が議会（政府）みたいでおもしろかったのに・・・。
- ・米軍が一番最初に教育されるのが人殺しだということ。

(4) テーマについて肯定側、否定側に分かれて議論する「ディベート」の授業について教えてください。

- ・論理的に考えられるようになった。
- ・ディベートをすることを念頭に置いて考えたり調べたりすることで、自分の視野が広がり、知識も深まった。
- ・自分の意見をどのように相手に伝えるかという事を考えることができた。
- ・沢山の資料を読んで、そこから使えそうなところをまとめ上げる力が少しでもついたようになると思う。
- ・全体の主張を理解する能力、考える力がついたと思う。

(5) 感想 意見 提案

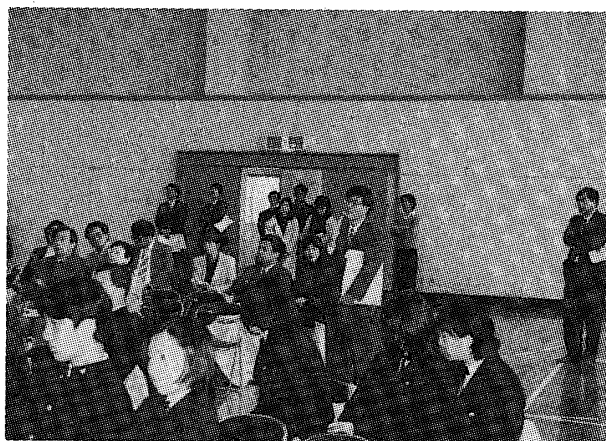
- ・もっとみんなで議論する時間を増やすと、深まる

と思う。

- ・他の人にもやらせてあげれば良かった。
- ・自分の意見と反対側へつかなければならぬのが辛い。
- ・本人の意思を尊重してほしい。
- ・時々、ムカツいて、「はあ？」とか思っちゃうので、冷静さをとれて良かった。
- ・大学の先生が行ったように円を囲んでディベートを見てみたい。

(6) 最終戦の役割分担について、意見、感想、提案があれば、書いてください。

- ・一言もしゃべらない人がいたのが残念。観客の意見を言う時間が少なかった。
- ・立論や弁論など形式にこだわらず、肯定、否定に分かれての自由討論の方が、自分の意見をもっとはっきり言えると思った。
- ・疲れた。もう一度やるならもう少し上手にやりたい。
- ・みんな良くできていたと思う。こんなにいいものに仕上がったなら私も何か役割をすれば良かった。
- ・もう少し準備期間がほしかった。学年全体での活動が良かったと思う。みんな寝てなかった。ディベーターとしてとても嬉しかった。
- ・ディベートをするのは大変だという事がよくわかった。
- ・今回の通りで良かったと思う。自分の考えと違う側なら、それはそれで反対側の利点や欠点を知ることができて、視野が広がり、全体を見て考えることができるので。



交流会で一般参加者の質問

10. まとめ

ディベートを企画運営するに当たり、高2の学年

## 2. 高校2年 ディベートの計画と指導

団の教師は度々勉強会を開き、意見交換をして進めていった。ディベートそのものに対する疑問や、実施方法に対する議論は尽きなかったが、研究旅行後にディベートを公開授業として実施するために万全の協力体勢がとられた。

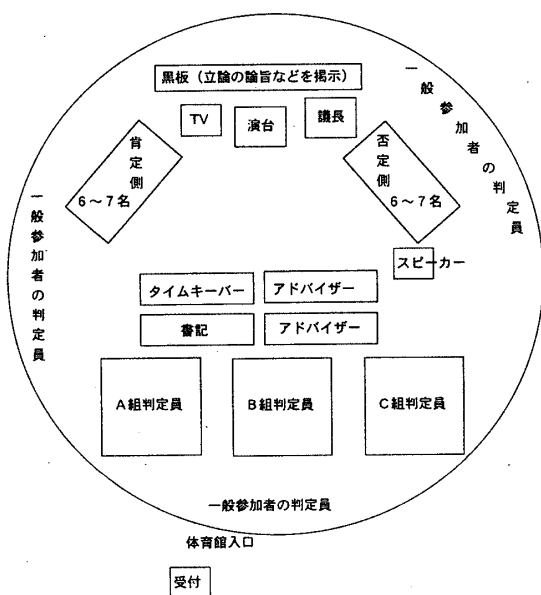
ディベーターたちは研究旅行中も平和ガイドさんに質問して、沖縄の人々の立場から見る米軍基地問題について詳しく語っていただいた。旅行前は肯定側有利と思われたが、平和ガイドさんの話を聞いて、否定側に有利な情報を得た。この質問会に立ち会った教師は、米軍基地をめぐる状況が年々変化しつつあることを思い知らされた。

最終戦は僅差で肯定側が勝利をおさめた。肯定側も否定側もディベートのために膨大な資料を集め分析して立論を組み立て準備を行った。約120名の学年全体で1試合に参加するためには、多くの生徒が判定員として参加することになり、果たして全員が集中できるかという心配があったが、結果としては大成功であった。

学部の植田先生からは、一般参加者の座席をアドバイザーの後ろ一カ所に集中するのではなく、ディベーターや議長を囲むように円形に座席を配置すると良かったのではないかというアドバイスがあった。誠にその通りで、座席に固定されていた一般参加者の皆さんには申し訳なかった。会場を歩き回って好きな角度からディベートを参観していただけると良かったと思う。

### 会場づくり一機の配置 (改善案)

会場づくり一機の配置 (改善案)



会場は第2体育館ということで大変広い場所で公開されたため、会場づくりは特に配慮されていた。一部声が届かなかったり、スピーカーから流れる音声は体育館全体に反響して聞こえにくかったりといった問題があったが、会場がもっと狭ければこの問題は解決されるものである。理想としては第2体育館の半分の広さの小体育館のような会場で公開できるとマイクも不要で、生徒と一般参加者とが一層近い距離で授業が出来たと考えられる。

今回は、ディベート後に交流会が開かれて、ディベート参加者と一般参加者の意見交換が行われた。ディベーターたちは自分の考えとは相反する側で議論しなければならぬ苦勞を述べたり、質疑応答の際に相手側の上首尾な誘導尋問にかかって残念だったというような本音を語った。また、立論を書いて指導教官のところへ持っていったら書き直すように言われ、その時は本当に困ったが、実際に書き直してみたら自分でも満足できる立論が書けたというディベーターの発言もあった。

これは、一昨年にディベートを実施した際に、交流会を設定しなかったため、ディベーターが本音を語る機会がなく、ディベートのストレスをフォローすることが出来なかったという反省の上になつて設定されたものである。交流会は、ディベートで肯定側と否定側のどちらかの立場で議論しなければならないという心理的な重圧を緩和し、ディベーターの苦勞を参加者全員で理解し分かち合うために有効である。また、交流会では自由に意見交換が出来るので、出場しなかった生徒も発言の機会を得て、彼らの意見が尊重され、相互理解を深め、論題をさらに別の観点から考えることができる。

教師同士、教師と生徒、そして生徒同士の信頼と協力がなければ、これだけ大規模なディベートを実現することは不可能であつただろう。学部の植田先生、研究部、高2学年団、高2生徒、そして調査研究に協力していただいた沖縄の皆さん、一般参加者の皆さん、その他、多くの皆さんの協力のお陰で高2ディベートを成功させることが出来たことを感謝している。

### 参考文献

- 吉田和志著 「ディベートをどう指導するか」 明治図書 教室ディベートの新時代8  
 松本道弘著 「やさしいディベート入門」 中経出版  
 金野洋著 「ディベート教室・実践編―事例研究」 学書房



- 岡本明人著 「授業ディベート入門」 明治図書  
教育新書128
- 松本茂著 「頭を鍛えるディベート入門 発想  
と表現の技法」 講談社ブルーバッ  
クス
- 北岡俊明著 「ディベートの技術」 P H P 研究  
所
- 松本道弘著 「これがディベートのやり方だ」  
中経出版
- 北岡俊明著 「ビジネスディベートの方法と技術」  
産能大学出版部
- 石黒修著 「討論の技術」 明治図書
- 佐長健司編著 「ディベートによる社会科の授業づ  
くり」 明治図書